

とらやまの森



ツシマヤマネコの交通事故に遭ってしまったら…

ツシマヤマネコと交通事故

平成4年から令和6年12月1日時点までのツシマヤマネコ（以下「ヤマネコ」）の交通事故の発生件数は148件に上ります。平均すると年間4～5件発生しており、事故時に死亡していた事例は135件（約91%）で、ヤマネコにとって深刻な脅威となっています。

運転中にヤマネコと接触してしまったら



たとえ注意して運転していても、ヤマネコとの接触が避けられない場合があります。万が一接触してしまった際には、安全な場所に停車し、対馬野生生物保護センターにご連絡をお願いします。なお、ヤマネコが道路上にいる場合は、二次事故を防ぐため、可能であれば素手で触れずに路肩へ移動させてください。また、ヤマネコの交通事故が発生してしまった場合、事故現場周辺に他のヤマネコが出現する恐れがあります。事故現場周辺での車の減速と目撃情報の提供にご協力ください。負傷したヤマネコや死体を発見した場合においてもご連絡ください。対馬野生生物保護センター（0920-84-5577）は24時間通報対応しています。※ヤマネコとの偶発的な事故で、罪に問われることはありません。

交通事故に遭わないために

秋から冬にかけてヤマネコの交通事故が増加します。事故を防ぐために「ヤマネコ事故多発」の標識を見かけたら、速度を落とし、十分に注意して走行してください。また、夜間は車のライトの光が動物の目に反射して光るため、ハイビームにすることで早期に発見することができます。



ヤマネコ通報対応中



ヤマネコは耳の後ろに白い斑があります

対馬野生生物保護センター
0920-84-5577 (24時間対応)

ツシマヤマネコ野生順化ステーション
0920-57-0101 (8:30～17:15)

開館時間と休館日のお知らせ

【開館時間】10:00～16:30（入館は16:00まで）

【休館日】月曜日（月曜日が祝日および振替休日の場合は開館し、翌日火曜日が休館となります）

おかえり「さすな」、ようこそ「チョコビ」



京都市動物園から「さすな」が、福岡市動物園から「チョコビ」がツシマヤマネコ野生順化ステーション（以下「ステーション」）にやってきました！昨年からの飼育している「したる」と合わせて3頭の飼育になります。



京都市動物園提供

▲ さすな ♀

2021年4月に東山動植物園で誕生



福岡市動物園提供

▲ チョコビ ♂

2021年5月に対馬野生生物保護センターで保護

「さすな」は、2021年末～2022年にかけてステーションで野生順化訓練を行った個体です。よこはま動物園ズーラシアで飼育されている「こう」と柵越しで飼育し、お見合いも行いました。

「チョコビ」は、2021年に対馬野生生物保護センターにて保護された個体です。動物園に導入され、ヤマネコの繁殖に貢献していました。

ステーションで繁殖に取り組みます

ステーションは新しい取り組みとして、さすな・チョコビの2頭で繁殖を行います。ステーションで繁殖を行うことには大きな意味や目的があります。広大な順化ケージを活用してヤマネコの生息地の環境に近い条件で繁殖を行うことで、繁殖行動に関する生態学的な知見を収集し、ヤマネコの保全に活用したいと考えています。

また、将来的には、傷病などの理由で一時的に保護収容した野生個体を繁殖に用いたあと野生に戻すことで、野生個体群への影響を最小限にしつつ飼育下個体群の遺伝的多様性の維持に貢献することが期待されています。

2月～4月頃にペアリングを行う予定です。ステーションでは、日本動物園水族館協会と連携して、万全の体制で繁殖に取り組んでいきます。この取り組みが少しでも今後のヤマネコの保全に貢献できるように努めます。



ツシマヤマネコ交通安全ポスター展作品展示中

ツシマヤマネコ交通安全ポスター展は、ヤマネコの減少要因の一つである交通事故の現状を多くの世代の方々に知ってもらい、交通安全や自然保護について考えてもらうことを目的に行っています。今年で13回目を迎え「ヤマネコの交通事故よ、なくなれ」をテーマに、島内から150点もの作品が寄せられました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

受賞作品の表彰は10月14日に対馬野生生物保護センターで開催された「とらやま祭り」で行いました。

ご応募いただいた全作品は1月29日まで豊玉文化会館で展示していますので、ぜひご来場ください。

最優秀賞作品



小・中学生の部



一般の部



とらやま祭り表彰式の様子

ステーションだより

秋のステーションツアー

ステーションは普段は非公開の施設ですが、年に数回、一般の方々を対象にイベントを開催しています。11月9日はヤマネコについて学んだあと、野生順化ケージ内に足を運び、施設内を見学しながら、生き物の痕跡を探索しました。

その後、ヤマネコの餌動物（ネズミなど）が増えるように願いながら、2番ケージの畑に小麦を播きました。小麦は無事に発芽して、すくすく育っています。



▲麦まきの様子



▲ステーションツアーの様子



▲麦まきから10日後の様子

クイズ

次のうち、対馬に生息する在来のカエルの種数を示したものはどれでしょう？

- ①3種類 ②4種類 ③5種類

答えはウラ（4ページ）をみてね！

対馬にいる生き物をご紹介します！

第19回

ヌマガエル

学名：Fejervarya kawamurai



外来種はなにも他国から来た生物ばかりではありません。この「ヌマガエル」は、日本では主に西日本に生息しています。しかし近年、本来生息していなかったはずの関東地方やここ対馬を含む長崎県の島嶼部などに侵入しています。

こういった本来の生息地でない地域に人為的に移動された生物を「国内外来種」といいます。対馬には在来のカエルが3種類（ツシマアカガエル、チョウセンヤマアカガエル、ニホンアマガエル）がいますが、ヌマガエルとの競合が懸念されます。

※前号のツシマフトギスの紹介文にて、誤った情報をお伝えしておりました。訂正内容は以下の通りです。
訂正前：「対馬固有のバッタです。」 訂正後：「対馬固有のキリギリスです。」



今回の対馬のあの人この人は

No. 33 一般社団法人 対馬里山繋営塾 理事

かわぐち もとこ

川口 幹子さん

どのような活動をされていますか？

対馬の自然や歴史、文化を活かし、観光事業と教育事業の2つを展開しています。

観光事業では、農林漁業や対馬の暮らしを体験できる体験型民宿の手配やトレッキングガイド、ヤマネコ探索ニヤイトツアーのようなツアー企画を実施しています。

教育事業では、修学旅行や企業研修の受け入れ、教育機関での講演などを行っています。また、昨年4月からは仁田小学校、佐須奈小学校の児童を対象に学童保育を始めました。



活動をはじめたきっかけはなんですか？

島おこし協働隊として対馬に移住し、活動を行う中で、対馬の自然資源を最大限に活かした暮らしや自然と共生している姿に感銘を受け、自然と共に生きる地域の営みを後世に語り継いでいきたいと考えたのがきっかけです。

今後の取り組みの目標などはありますか？

観光利用による自然環境損傷の防止やエコツーリズムのさらなる展開のために、自然環境を活用した観光利用のルール作りや関係者間で連携の推進に取り組んでいきたいです。

また、現在実施している学童保育の取り組みについても拡充させていきたいと考えています。

一般社団法人 対馬里山繋営塾 対馬市上県町志多留307
TEL: 0920-85-1755 mail: contact@satoyama-keieijuku.com

クイズの答え

正解は①です。対馬には、在来種としてツシマアカガエル、チョウセンヤマアカガエル、ニホンアマガエルの3種が生息しています。